

森林へ広がる外来植物たち

おおにし わたる
大西 亘(学芸員)

本来の生育地外から持ち込まれた植物は、外来植物と呼ばれ^{※1}、花壇の花や庭木、野菜や果樹、街路樹などを含め、私たちの身の回りにも様々なものが生育しています。外来植物と聞くと、何か問題がある植物のように感じる人もいるかもしれませんが、すべてがそうではありません。人の管理が及ぶ範囲で栽培・育成されているならば特に問題はないのです。

ただし、栽培されているものでも、管理している区画の外へ逃げ出してしまったり、継続的な管理が難しくなることが予想されるようなものは、将来的に問題を生じる可能性があります。中でも、人の管理下を離れて、自然環境へ生育を広げてしまう外来植物（侵略的外来植物）は、本来その場所に生育していた在来植物の生育地を奪うだけでなく、在来植物と関わりを持っていた他の生物にも影響を与える懸念があります。

そのため、外来植物のうち、「生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの」の一部は、外来生物法^{※2}で「特定外来生物」に指定されています。特定外来生物に指定されると、市町村が実施する防除活動等に国の財政的支援が得やすい仕組みがあり、社会的認知が高まることから、適切な管理が行われやすくなります。ただし、現在「特定外来生物」に指定された外来植物は、海外でも深刻な影響を及ぼしている水辺の植物を中心とした19種に限られます。^{※3}

侵略的外来植物は、主としてそれぞれの生育に適した自然環境へ侵出します。ここでは、これまで外来生物法の議論や、国内の外来生物防除の取組みの中ではあまり注目されてこなかった、森林環境へ生育を広げる侵略的外来植物のうち、現在神奈川県で見られる主なものを紹介します。

* 和名 学名〔外来生物法における指定状況〕撮影年 撮影地



コンテリクラマゴケ *Selaginella uncinata* (Desv.) Spring [その他の総合対策外来種] 2021年 小田原市

湿り気のある薄暗い林床を覆い広がるシダ植物。地面に青いペンキをひっくり返したような独特の光景が見られます。園芸目的で持ち込まれたものが逃げ出しました。



ビロウ *Livistona chinensis* (Jacq.) R.Br. ex Mart. [指定なし] 2020年 真鶴町

表紙（17 ページ）でも紹介した侵略的外来植物です。安定した環境の照葉樹林が増えれば、各地で広がる可能性があります。



モウソウチク *Phyllostachys edulis* (Carrière) Houz. [産業管理外来種] 2014年 真鶴町

春のタケノコでおなじみのモウソウチクは、ひとたび人の管理下を離れた場合には、侵略的にふるまう典型的な侵略的外来植物です。竹林ごと周囲の土地を飲み込むように拡大し、密生した^{かん}稗で太陽光を遮るとともに、落ち葉で^{さえぎ}地面を覆いつくして土壌への雨水の浸透を妨げます。さらに地表面の水分を吸収して、暗く乾燥した林床を作り出し、結果的に他の植物が生育できない環境にしてしまいます。各地で問題化し、駆除や管理が行われています。



クワズイモ *Alocasia odorum* (G.Lodd.) Spach [指定なし] 2015年 真鶴町

サトイモそっくりの見た目ですが、地下部は食べられません。四国・九州以南の暖地の沿海地に見られ、まれに誤飲事故があります。写真のクワズイモの下にはノハカタカラクサが生えており、さながら外来植物天国になっています。

※1 環境省の定義による。問題のあるものだけを「外来種」とする考え方もあります。

※2 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」

※3 2021年8月1日現在



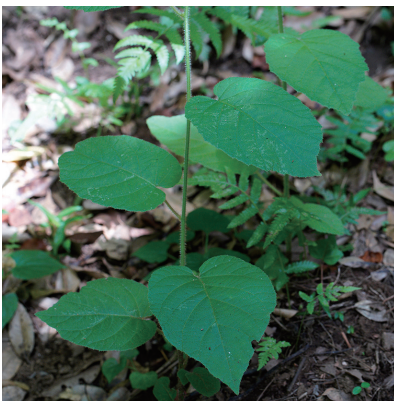
ノハカタカラクサ *Tradescantia mundula* Kunth [重点対策外来種] 2021年 小田原市

成長が早く、旺盛に広がって地面を覆います。湿り気のある肥沃な林床ならば陽射しにも強く、一方で暗い照葉樹林やモウソウチク林にも広がることのできる生育適地の広い植物です。



ビワ *Eriobotrya japonica* (Thunb.) Lindl. [産業管理外来種] 2021年 真鶴町

庭木としても見かけるビワですが、鳥や哺乳類が種子散布をして樹林内にも広がります。



キウイフルーツ *Actinidia chinensis* Planch. var. *deliciosa* (A.Cheval.) A.Cheval.

[産業管理外来種] 2021年 真鶴町

暖地で栽培され、鳥や哺乳類が種子散布をして周囲の樹林へ広がります。つる植物で成長が早く、樹木を覆って陽射しを遮り、弱らせてしまう懸念があります。



ツルニチニチソウ *Vinca major* L. [指定なし] 2019年 小田原市

明るい緑色の常緑の葉と、1年中見られる大きな紫色の花が目を引く園芸植物です。庭先や花壇に植えられますが、樹林地にも逃げ出すやっかいな植物です。



マルバフジバカマ *Ageratina altissima* (L.) R.M.King et H.Rob. [その他の総合対策外来種] 2019年 南足柄市

植林地の伐採跡や林道の脇、鉄路の脇などを主な生育地としますが、比較的風通しのよい植林地などでも生育が見られます。本稿で紹介している外来植物の中で、標高数百m以上の山地に広がるのは本種のみです。在来の絶滅危惧種の多い山地草地への侵入が懸念されます。



カミヤツデ *Tetrapanax papyrifer* (Hook.) K.Koch [その他の総合対策外来種] 2020年 真鶴町

成長が早く、地下に横走る根茎を伸ばし、そこから新しい株を伸ばすため、地上部だけを刈っても根絶が難しい低木です。真鶴町などでは過去に防除の取り組みも実施されていますが、根絶に至っていません。

* * * * *

本稿で紹介した森林へ広がる外来植物たちが、すみかを占有すること以外に、在来の植物や周辺の生態系に対し、具体的にどのような悪影響を引き起こすのかは、まだほとんど明らかになっていません。おそらくそういった実態が明確でないために、これまで外来生物法などの議論でも取り上げられる機会が限定的だったのではないかと考えられます。しかし、鬱蒼とした森林にもどんどん入り込んで増殖し、年々その生育地を拡大している点で、森林に広がる外来植物も、早期の対策の検討と防除の実施が必要でしょう。将来への対策の先送りは、生育拡大後の防除などの社会的負担を増大させるばかりでなく、絶滅危惧種を含む在来生態系へ与える負の影響を看過してしまう懸念もあります。

関連する資料など

神奈川県立生命の星・地球博物館 (2014) どうする?どうなる! 外来生物とりもどそう私たちの原風景. 128 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. 環境省 (2021) 日本の外来種対策. <http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html> (2021年8月1日閲覧)